

腹部における画像診断の特質のひとつとして、撮像範囲内に様々な臓器が含まれるということが挙げられます。当然ながら多くの臓器に、実に様々な所見に遭遇します。腹部の領域に限ったことではありませんが、画像診断の初学者のうちには偶発的に遭遇する所見がはたして病的か否か、迷うことが多いように思われます。そうした疑問に対しては、教科書などの成書では解決が得られないものの、上司や先輩といった上級医に聞くと容易に解決が得られるものも少なくありません。

既に他の領域において、“ビギナーのための画像診断”という特集号が生まれ、素晴らしい書誌が上梓されています。今回、編集部から腹部画像診断の特集を組むように依頼をいただきましたが、本特集もこれまでに出版された特集に倣って、質問に対して解説するという形式を踏襲し、広く様々な病態・画像所見の解説を行い、基本的な事項を効率的にマスターするということを目指しています。

項目を設定するにあたって、まずは当院の若手の医師達に聞いてみたところ、日常の画像診断の中で感じる疑問が数多く挙げられました。それらの中から多くの初学者が疑問に感じるようなもの、なるべく実践的で役に立ちそうなものという観点で項目を絞り込みました。校訂の段階で項目を振り返ってみると、中には質問が漠然としていたり、明確な答えを記述することが難しいものもあり、執筆者の方々には少なからずご負担をおかけしてしまったこともあるかと申し訳なく思いますが、押さえておきたい基本的な事項が多く含まれていますので、ビギナーに限らず専門医試験前の先生が基本的な要点のおさらいのために目を通していただくのもよいかもしれません。本特集が、画像診断に携わる初学者の方々の効率的な学習の一助となれば幸甚です。

最後に、本特集が初学者が腹部領域で遭遇するあらゆる疑問に十分に対処できるものかということ、残念ながらそのようなものには程遠いと思います。逆説的ではありますが、若い先生方にとっては上級医に所見を相談することができる読影室の環境の重要性を改めて痛感します。そのようにして得られた知識はよく身につくものだからです。是非、若い先生方は自分が疑問に思ったことを周囲の先生と議論できる機会を大切にしたいと思えます。往々にしてその大切さは後から認識することが多いのですが、

2021年1月

倉敷中央病院放射線診断科
小山 貴